

表1 防災訓練 課題対応(案)

No	分類	あるべき姿	課題/問題点	原因分析	対策(原因分析結果)	パンチリスト
1	ERCとの対応	ERCとの素早い接続	ERC対応者からERCへの接続開始は、警戒事態発令から15分以上経過してからだった。	・原子力防災マニュアル(以降、マニュアル)には、『警戒事態の発令後、15分以内を目途として電話回線をERCと常時接続』と記載していたが、ERC対応者が手順通り実施しなかった。また防災管理者は、ERC対応者がERCと連絡開始済みと思い込んでしまった。	・マニュアルに『防災管理者はERC対応者が連絡したことを確認する』を記載する。また教育で周知する。	NFI、社内
2		重要な情報の伝達	ERC対応者の発話に間違いや曖昧な表現があったり、情報伝達漏れがあったりした。	・白板やクロノロへの重要な情報の記載が遅れることがあり、ERC対応者は、情報の入手が遅れたり、情報を見落とししたりした。 ・ERC対応者は、情報の入手遅れや情報を見落とし等により不明な点がある場合、ERC対応サポート者を通じて正確な情報を収集することができなかった。 ・防災管理者のブリーフィング内容がERC対応者に伝わらなかった。	・マニュアルに『ERC対応サポート者は、重要な情報が白板やクロノロへ記載されるのが遅れた場合、ERC対応者に当該情報が遅れて記載されたことを伝達する』を記載する。また教育で周知する。 ・白板やクロノロの記載担当者は、防災管理者のブリーフィング内容を白板やクロノロに記載する。	12、15
3		速やかな情報送信	収束の判断を記載した社内マニュアルをFAXで送信すると伝えてから暫く時間があり、最終報に添付するまで十数分の時間を要した。	・ERC対応者は、『FAXで社内マニュアルを送付する』という考えで行動してしまい、ERC派遣者の活用には思い至らなかった。	・マニュアルに『ERCから要求された資料は、FAXかERC派遣者へのメール送信を通じてERCに送付する』を記載する。また教育で周知する。	6
4		FAXへの正確な記載	・10条通報の『検出された放射線量の状況、検出された放射性物質の状況、主な施設・設備の状態等』に排気筒モニタ値の時系列を記載したが、『排気モニタが ≥ 7000 cpmが10分継続』という特定事象の判断基準や現在の線量と施設の状況を記載し排気筒モニタ値の時系列は、『その他特定事象の把握に参考となる情報』に記載すべきであった。 ・第3報(第25条報告)には「消火完了」の対応の概要がその他の事項の対応に記載されている。消火対応は収束戦略にも記載されており、ダンパを閉めるための措置でもあるので、「発生事象と対応の概要」に記載すべき内容であった。 ・第1報(様式第10)で発生事象と対応の概要に記載する内容が多すぎて下の欄にはみだし記載が不明瞭になった。 ・第1報(様式第10)で様式なのか添付資料なのか曖昧であった。	・マニュアルの様式記載例には「その他特定事象の把握に参考となる情報」の欄に特定事象の基準を記載する例を示しているが時間的な焦りとERC対応者が説明するとの考えがあった。 ・第3報(第25条報告)の記載場所に対する通報班の認識が不足していた。 ・記載事項が無い場合は、「-」を記入するようマニュアルの記載例で示していたが、今回、下の欄にはみ出してしまい、記載が不明瞭になってしまった。 ・第1報(様式第10)は、警戒事態該当事象発生後の経過報告以外は、添付資料であり、添付資料の有無を明確にすべきであった。	・様式第10に添付書類有無の欄を設け、マニュアルを改訂する。また教育で周知する。 ・マニュアルの様式記載例、特に記載事項が無い場合は「-」を記入すること、各記載場所に記載すべきことについて教育で周知する。	2、5、9、10
5		良好な音質でのERCとの情報伝達	・ERC対応者が用いたマイクが周囲の雑音を拾っていた。	・雑音を拾いにくいマイクやスピーカーの種類及び配置に対する事前確認が不十分であった。一方、ERC対応者がバックアップのヘッドセットを用いることで雑音が低減した。	・雑音を拾いにくいマイクやスピーカーの種類及び配置を事前検討する。	8
6	本部と各班の連携	風下にあたるMP-2のモニタリング	EA室のコントローラ情報では、MP-2はエラーで表示なしとしたが、放管長は最初からしばらくは間「-」を記録。副防災管理者の指示で放射線班をMP-2に派遣し、サーベイメータを用いて線量測定を行い一旦MP-2の値を記録した。しかしその後、放射線班は区域内の線量分布測定に向かい、MP-2の経過報告は無しになってしまった。そのためMP-2の値が、MAX値不明の状態となったため、周辺への影響評価も推定を含む不明確なものとなってしまった。	・今回の風向きから推定してMP-2は敷地境界線量の重要な数値であり、優先すべきであったが、放管長と放射線班はMP-2の値と区域内の線量分布測定の優先度を理解していなかった。	・マニュアルに『風向きを踏まえ重要な数値となるMPIに表示エラーが出た場合は、MPIに放射線班を派遣し、サーベイメータを用いて線量測定を行う。』を記載する。また教育で周知する。	社内 (レベルアップ)